

# 第5期雄武町総合計画 前期実施計画書 兼 事務事業事後評価調書

様式1

No. 0101001

政策目標	2 めくもり・雄武～保健・医療・福祉の充実～	会計区分	1 一般会計	【全体計画内容】※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	6 保健・医療の充実	事業優先度	B	
単位施策	5 地域医療体制維持の確立	政策事務分類	1 単独自治事務(例規)	
事業名	医師・保健医療技術者修学資金貸付事業	見直し年度		
事業期間	平成20年度～平成24年度	担当課	1 総務課	
事業主体	雄武町	関係課	5 保健福祉課	
事業指標	修学資金貸付者数		14 国保病院	
事業目標	1人/年	ハート/ソフト事業区分	2 ソフト事業	
住民参加	2	関係例規・法令名	1 ⇒	
住民協働		関係個別計画名		

全体計画		平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
事業内容		事業内容	事業内容	事業内容	事業内容	事業内容
計画内容	修学資金貸付 1人～3人/年	修学資金貸付	修学資金貸付	修学資金貸付	修学資金貸付	修学資金貸付
	事業費(千円)	8,640	960	2,880	1,920	960
計画事業費	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
	その他	0				
一般財源	8,640	960	2,880	1,920	960	
実績事業費	事業費(千円)	11,520	2,880	3,840	1,920	960
	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
その他	0					
一般財源	11,520	2,880	3,840	1,920	960	
関連事項	(特定財源の詳細等)					
	【評価・実績】	(実施内容等) 修学資金貸付 4人	(実施内容等) 修学資金貸付 4人	(実施内容等) 修学資金貸付 2人	(実施内容等) 修学資金貸付 2人	(実施内容等) 修学資金貸付 3人
		※前年度評価結果	※前年度評価結果 A-継続/現状維持	※前年度評価結果 A-継続/現状維持	※前年度評価結果 A-継続/現状維持	※前年度評価結果 A-継続/現状維持
	第4期総合計画関連 (継続無し)	年度目標値 1人	3人	2人	2人	1人
		年度達成率 300%	133%	100%	100%	100%
	全体達成率 33%	78%	100%	111%	133%	
	事業進捗状況	☆☆☆☆☆	☆☆☆☆☆	☆☆☆☆	☆☆☆☆	☆☆☆☆☆

事業名	医師・保健医療技術者修学資金貸付事業	評価者 管理職 職氏名	総務課長	原 正美
		評価者 作成者 職氏名	庶務係長	林 史祥

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	医師や保健医療技術者の資格を取得し、雄武町職員として勤務することを希望する者	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	修学資金貸付者数		
【抱える課題やニーズは】	地方においては医師や保健医療技術者の不足が大きな問題となっており、人材の確保について体制を構築する必要がある。		指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	将来、雄武町職員として医療の現場等で働く意欲のある者に対して、経済的な理由により希望する職種への道が閉ざされることが無いように、修学資金の一部を援助(貸付)し、不足する医療技術者の育成確保を図る。		① 修学資金貸付者/修学資金貸付者実績	目標年度	平成24年度
【その結果、どのような成果を実現したか】 ※成果=目的	慢性的に不足している医師や保健医療技術者を確保することにより、雄武町の保健医療体制の充実が図られる。			目標値	1人
【内容(どのような手段で何をを行ったか)】	修学資金の貸付	薬剤師(1人)、看護師(1人)、保健師(1人)を目指している者に対し、修学資金の貸付(年額96万円)を行った。	実績値	3人	
			達成度	300.0%	
			②	目標年度	年度
			目標値		
			実績値		
			達成度	#DIV/0!%	

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	雄武町の保健医療体制を充実させる手段として、保健医療技術者の確保は大きな課題となっていることから、行政が責任をもって人材確保に努めていく必要がある。
必要/概ね必要/課題あり	<input type="checkbox"/>	全部	
	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	平成24年度の貸付者3人のうち資格を取得した1名については、平成25年度から雄武町職員として採用となり、退職により欠員が生じた保健医療技術者の補充を図ることができた。また、貸付者のうち修学中の者についても、資格取得後、雄武町において保健医療技術者として働く意思を持っており、今後においても本事業の成果が期待されるところである。
有効/概ね有効/課題あり	<input checked="" type="checkbox"/>	達成
	<input type="checkbox"/>	ほぼ達成
	<input type="checkbox"/>	下回る

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

概ね効率的	判断の理由	修学資金の貸付については、経済的な負担軽減という効果があるほか、就職先を決定する際の大きな判断材料にもなることから、修学に要する学費や生活費等を考慮した現在の月額8万円という貸付額は、妥当であると判断される。
効率的/概ね効率的/課題あり	<input type="checkbox"/>	事業費抑制
	<input type="checkbox"/>	人員削減
	<input type="checkbox"/>	時間短縮・作業軽減
	<input checked="" type="checkbox"/>	その他

(4)事務事業の公平性

概ね公平	判断の理由	将来的に保健医療技術者として雄武町で働く意欲のある者に対する修学資金の一部貸付であり、基本的には申請者全員に貸付を行っていることから公平性の観点からは問題はないと思われる。なお、貸付者が資格を取得できなかった場合や雄武町職員にならなかった場合には、貸付金を全額返還させることになっている。
公平/概ね公平/公平でない	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がない
	<input type="checkbox"/>	受益が一部に偏る
	<input checked="" type="checkbox"/>	その他

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A～D】

A: 計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等  
 B: ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等  
 C: 当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等  
 D: 事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
慢性的な保健医療技術者の不足を解消するための事業として、希望者に対し修学資金の一部貸付を行ったことから、目的どおりに事業を進めることができたと判断する。		



継続/現状維持		
保健医療技術者の充実については、長いスパンで考えていかなければならない問題であることから、本事業については継続することが必要であると判断する。		

※展開方向の区分  
 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更  
 終了  休止  廃止